



神奈川県新聞記事 11月30日

政令市の権限強化

総務省 大都市制度の見直し案

総務省は29日の地方制度調査会で、大都市制度見直しの中間報告案を提示した。政令指定都市に道府県の仕事を大幅に移して権限を強化することや、中核市（人口30万人以上）と特別市（同20万人以上）の一本化が柱。地制調は全国知事会など地方6団体の意見を聞いた上で、年末に了承する見通しだ。報告案は、政令市について「県との二重行政が深刻化し、能力が高いため、道府一でいる」と問題視。両者で

実施している同種の業務は、政令市に一元化するよう求めた。具体的には、都市計画や福祉、教育などを挙げた。また「市役所が大規模化し、住民との距離が遠くなる傾向にある」として、身近な区役所の役割強化を提

言。区長に予算編成権の一部を与えるほか、区ごとに教育委員会を置くようにすべきだとした。特別市は、地方分権が進み、一般の市町村の権限が強化されたことから、存在意義が低下したと指摘。特別市を廃止する一方、より権限が多い中核市の要件を

人口20万以上に引き下げる形式で統合することを提案した。横浜市などが求める「特別自治市」の創設は、見送るべきだとした。政令市を道府県から独立させる構想のため、20ある政令市に適用すれば、事実上、都道府県が67にまで増えてしまう

ためだ。大阪府を廃止し、東京23区のような特別区に分割する「大阪都」構想にも言及。都構想法に基づく制度づくりを進める大阪府と大阪府に対し、現在より人件費など行政経費が増えない内容とするよう求めた。

二重・三重行政のムダ

このままでは、地方自治体は立ち行かないと全国知事会や全国市長会から制度改革を再三に求めてきた。地方の歳出超過の穴埋めを保障している地方交付税制度や、さがみ縦貫道路建設のような国の直轄事業への負担金拠出などは、大きな負担を否応なく地方自治体に負わせている。又、こと細かに施策に国が口をはさむことを容認している現行制度は、地方も特色ある自治の自立を阻害している。

本市が政令市に移行し、県から1400を超える権限が委譲されたが、依然として県との間にはたくさんの二重行政と言える事業や、権限の分担がスムーズな事業実施の壁となっている。例えば、小中学校教職員の採用権限は県から政令市に移管された。市の目標とする教育を実現するために必要で優秀な教職員を採用することが可能となった。しかし、教職員の給与の歳出権限を県が持っていることから、人事面での縛り付けとなっているのではないかと

身近で便利な区役所の実現と地域福祉窓口の充実！

政令市移行で誕生した区役所は、様々な手続きや相談を市役所に行かなくても行えることが期待されている。私は議会でも大区役所制の導入や、たらい回しにしない窓口業務の実現のためのワンストップサービスの実施で市民の利便性を上げるべきと、主張してきた。区長の予算・人事権の拡充と合わせて、既に岡山市で実施している区長の公募による民間意識の導入も必要ではないのか。お役所仕事の打破も必要だ。政令市の権限強化を急ぐべきだ。

市は、第5期高齢者保険福祉計画（平成24年度～26年度）で、地域福祉の相談窓口ともなっている地域包括支援センターを高齢者人口1万人を超える相模台、大野南、大野中地区などで増やすとしている。複数公民館区のある地区では館区ごと、相模台地区は2箇所となる。地域包括支援センターは、身近な福祉の相談拠点とするならば、もっと分かりやすい場所に開設する必要があることを指摘したい。

ひろ おおつき和弘 スロフィール



- 1955年山形県酒田市生まれ
- 相模原市立相模台中学校(2期生)
- 神奈川県立大和高等学校(9期生)
- 多摩美術大学
- 大規模総合印刷研究所 代表

(現在活動中)

- 相模原市地域公共交通会議委員
- 自治会法人 御園五丁目自治会長
- 相模台地区防災専門員
- 市立双葉小学校評議員
- 相模原災害ボランティアネットワーク運営委員

(活動歴)

- 自治会法人 御園五丁目 自治会長(8年)
- 相模台地区自治会連合会 副会長(4年)
- 相模台地区防災専門員(4年)
- 双葉小学校避難所運営協議会 会長(3年)
- 御園児童館・双葉小児童クラス運営委員長
- 双葉小学校ふたばっ子見守り隊 初代隊長
- 相模原災害ボランティアネットワーク副代表
- 相模原市市政功労表彰
- 市長感謝状(自治会活動・児童館運営)
- 神奈川県警察本部長表彰(防犯活動功労賞)
- 平成19年 相模原市議会議員選挙に初当選
- 民生委員会・建設委員会 副委員長
- 全国災害ボランティア議員連盟



麻溝台生協前交差点改良工事

(消防麻溝台分署入口交差点)

安全な歩道の整備
右折車線設置で渋滞解消

平成26年度完成予定

地域の課題に、
みんなが協力して
地域の要望が実現します。



相模原市説明資料

麻溝台生協前交差点（消防麻溝台分署入口）の改良工事が進んでいる。

予てより、矢敷動物病院前交差点の交通安全対策を求める地域要望があり、関係自治会・相模台地区自治会連合会より市へ要望書を提出していた。私は、今回の交差点改良の提案を含め、これまで対策の推進を強く行政に要望してきた箇所だ。

交差点改良のポイントは、動物病院前交差点と当該交差点間の見通しの確保と生協前交差点の安全な歩道整備と村富線方面への自動車右折ラインの確保を合わせて実現する。

この交差点改良工事の完成は、平成26年度

を目標としている。なお、平成25年度には、この先の北里東病院手前の歩道整備工事が実施予定となっている。

また、この交差点は都市計画道路(町田新磯)の計画線上にあるが、市は市内未開通都市計画道路の今後の整備計画をまだ明確にしていない。市は、平成24年12月に今後の都市計画道路の計画存続路線と計画廃止路線を公表し、パブリックコメント(市民意見聴取)を行う計画だ。

相模台地区は住宅密集地域の上にも、狭い道幅の道路が多く、防災対策上の大きな課題だ。安全で快適なまちづくりのために必要な道路の整備は、確実に進めて行かなければならない。